

2020年11月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時
2020年11月7日(土) 10:00~17:00

2. 開催場所
アイテックインターナショナル(オンサイト)
Teamsを用いてのリモート(オンライン)

3. 会員参加者<敬称略>

S: オンサイト出席、L: オンライン出席、欠: 欠席、議事: 書記担当、休: 休会

大見	S	牧野	L	横尾	S	山口(直)	議事	杉浦	S	三浦	S	城越	L	中山	欠
合田	S	佐藤	L	伊藤	S	舟山	S	出島	L	福田	L	李	休	河合	休
奥村	欠	水田	S	小峰	L	小西	欠	山中	欠	庄内	欠	池田	休	山口(展)	S
黒田	S	鈴木	S												

4. 研究会内容

1) 輪講: ロバスト設計のための機能性評価 第11章 信号因子と誤差因子 (担当: 山口、サポート: 小峰)

1. 信号因子と誤差因子

信号因子は①能動的信号因子と②受動的信号因子に分類される。①は消費者が自分で水準を変えて使う変数であり、②は電話の送話器、受話器が考えられる。送話器の入力は音声であり、受話器の入力は振動電流である。

2. 2種類の誤差因子

ユーザーの段階で生じる変数の中では、信号因子以外はその影響がない方が多いことが多い。このような因子は大きく標示因子(その影響があって当然)と誤差因子(その影響が無い方がよい)の2種に分類することができる。車の操舵機能の場合、車速が標示因子である。誤差因子は路面の状態などが考えられる。

2) QFDの演習 (福原先生)

リアル参加とリモート参加のハイブリット形態でQFDの演習(グループディスカッション)を行った。

【演習の説明】

市場調査には限界があるため、VOC(要求品質)は自分達(企業)で発見・創造すべきである。調査で得られた情報はそのための参考でしかない。

【演習1】要求品質の作成

クレーム、苦情、アンケートからの原始情報(顧客の生の声)を基にシーンを想定し要求品質(VOC)にする。原始情報(全24個)を3つに分け、3グループで分担しVOC作成した。

【演習2】KJ法

演習1で作成したVOCを一つにまとめ、参加者全員に分配しKJ法を進めた。

3) 事務局連絡

1. 事例・テーマ相談を活性化

- ・ 12月度の研究会は、テーマ相談、困りごと相談をメインに考える。

2. 対外関係

- ・ 品質管理学会分科会「新商品開発プロセス研究会」に参加を希望している方のバックアップ手段を検討する。